

ほふたえ

鶴岡発

絹のみちしるべ

羽前絹練通信

第4号 2017・冬号

The road to Silk・Uzen Kenren



精練を終えた布をミシンでつなげる



棒状に巻かれた布「こま」が仕上げの準備工程

おらだの 仕事場

Vol.4 仕上 (マングル・乾燥)

天然素材だからこそ
繊細でデリケートな
仕上げが品質を左右する
重要な「つなぎ」の工程



乾燥工程で生地の上から
糸を3回ほど伸ばす

精

練を終えた生地は、ミシンでつなぎ合わされ長く棒に巻かれた状態にされ、「仕上げ」と呼ばれる工程に入っていく。生地一枚一枚をお湯に通し、絞り、精練時にとりきれなかった不純物などを除去する最終すぎともいえる作業が「マングル」と呼ばれる工程である。繊細でデリケートな天然繊維であるがゆえの、実にきめ細かく手間のかかる仕事である。

湯通しされる布(マングル)



職人たちの綿密な打合せも欠かせない

そしていよいよ工程は「乾燥」へと入っていく。いわば「蒸らしてアイロン掛けしてしわを伸ばす」工程だ。棒に巻かれたまだしわが残る生地を乾燥機にセットし、生地の状態を見ながら、しわを伸ばすアイロンに当たるシリンドラーの温度や生地に掛けるテンションを微妙に調整する。この調整次第で生地は驚くほどに綺麗に仕上がるのだという。このセッティング技法は代々伝わってきたもので、往時の職人たちの知恵が今も生きている。使い込まれた年代物のシリンドラーの熱源は蒸気である。シリンドラーに蒸気を通し、表面温度を約150〜160℃に保ちながら作業する。

シリンドラーを通過していく生地



生地の幅や長さも整えられていく

ローラーが幾重にも回転し、その中を布が滑るように流れていく光景は、まるで生地の織りなす白い滝のようである。時には熱したシリンドラーに接触し火傷を負いながらも、布のしわを減らし、美しい生地に仕上げた次の工程へ渡す、という想いは忘れない。すべてはお客様のために。「つなぎ」の工程であるからこそ、おろそかにできないことがある。そんな職人魂が今ここに確かに受け継がれている。

おらだの職人さん Profile 4

整理課 仕上係
斎藤 浩貴
(平成16年入社)



高温の機械に触れて火傷したこともあり常に神経を使う仕事ですが、先人から受け継いだ機械に愛着を持ち、お客様からのお預かり物を大切に扱い次工程へ良い物を送り出すことが私の責任です。今後も現場が連携し、知恵と工夫を出し合いながらいい仕事をしていきたい。

多彩な特殊加工技術で対応

- ・オパール加工・樹脂加工・毛焼き加工
- ・オイリング・スリップ止め・ピーチ加工・柔軟加工
- ・UVカット加工・防燃加工・撥水加工・抗菌加工
- ・湯通し加工・湯煮(糊落し)・漂白仕上 など

お気軽になんでもご相談ください!

◆仕上げ後加工 〔特殊加工業務〕



◆水洗加工



※4匁程度から

◆染色



絹織物・絹交織物
(スカーフ・服地等)
※2匁〜30匁以上まで

羽前絹練の主な業務工程

仕上工程でしわが取り除かれ(上)
美しく巻き上げられていく生地(下)



はぶたえ

第四号発刊にあたって

羽前絹練株式会社

代表取締役 **阿部 純次**

日 中戦争勃発後は日満支経済ブロックに対応した織物輸出の増加に乗って一時経営が拡大した。しかし、戦時統制の強化と欧米への貿易途絶による染色原料入手難と原料燃料の配給割当の減少により、加工数量は最盛期の3分の1に減少し経営は困難に。追い打ちをかけるように1940年1月、第二絹拵株式会社鶴岡工場から出火、羽前絹練建物一棟、土蔵、工場などを焼失、さらに商工省鶴岡輸出絹織物検査所の建物全部が薪炭と化した。

そして1942年、非常時国策として県下一円の織物加工業の整理統合が進められ、羽前絹練株式会社は山形県織物整理精練有限公司に営業権を譲渡することとなった。

国策に沿って絹織物精練業と染色業が継続され、羽前絹練はその利益配当金と賃貸料を受け取り、工場と従業員はそのまま同所で操業を続けたが、羽前絹練株式会社としては事実上操業停止状態となっていた。

その後、第二次世界大戦がようやく終わり、戦後の経営立て直しに誰もががき苦しんでいる中で、関係者を元気づける明るいニュースもあった。1950年(昭和25年)、日本蚕糸會総裁(当時)の貞明



↑ 拝謁の間にある往時の写真(下)当社二階の拝謁の間

絹のみちしるべ

4

激動と苦難の時代の中で

一昨年夏、弊社の企業理念や業務内容、絹織物に関する知識、有数の絹織物産地である地元鶴岡などについてご紹介したいと考え、「はぶたえ(鶴岡発)絹のみちしるべ」を発刊してから、おかげさまで今回で第四号となりました。

これまで以上に弊社業務や鶴岡絹織物をご理解いただくための一助として、ご愛読いただければ幸いです。

寒さきびしい折り、ひととき、一息ついてゆったりとご覧いただきますことを願っております。



戦時中の困難、火災による焼失、営業権の譲渡。度重なる試練を乗り越えて、戦後、新たな時代へ。

時代の年輪を重ねてきた当社社屋の屋根群

皇太后陛下が、当時まだ山形県織物整理精練有限公司鶴岡工場という名称だった当社を訪問され、熱心に工程を視察され、当社二階の間にて社の関係者が拝謁した。これは1925年(大正14年)に、当時の皇太子東宮殿下(のちの昭和天皇)が東北行啓の産業視察の一環で当社工場に立ち寄られて以来の皇族によるご訪問となった。

そしてようやく織物統制の時代が終わると、山形県織物整理精練有限公司は1951年3月に解散。同年5月1日、再度羽前絹練株式会社として操業を引き継ぎ、輸出絹織物整理精練業を再開。そうして当社は、激動と困難の時代を経て、戦後復興へ向かう時流の中で、新生羽前絹練株式会社として再出発を果たしたのである。

参考文献:金屋・風間創業二二〇年史

鶴 岡 散 歩

観光・風土・自然・味覚

大正天皇の即位を記念して建てられた鮮やかな赤い屋根が特徴の擬洋風建築



郷土人物資料館 **大宝館**

大正時代にオランダバロック洋式を模して建てられた擬洋風建築で、シンボルの鮮やかな赤い屋根が城址の景観を美しく際立たせている。永年図書館として利用されてきたが、現在は鶴岡が生んだ先人・偉人たちの功績を伝える資料を展示している。

徳川将軍への献上品にもなった伝統の漬物

赤かぶ漬

温海地区の山の斜面を利用した焼畑農法で栽培される「温海かぶ」が有名で、古くは徳川将軍への献上品になったという。藤沢周平作品にも登場する赤かぶ漬は、鮮やかな色、甘酢っぱくさっぱりした風味、コリッとした歯ごたえが人気。



弊社表玄関



羽前絹練株式会社

〒997-0044 山形県鶴岡市新海町21-1
TEL:0235(24)1300 FAX:0235(24)1302
e-mail mail@uzen-kenren.co.jp
URL http://www.uzen-kenren.co.jp